



特集3 年次報告会 CIRAS

共同利用・共同研究拠点 「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」

村上 勇介

京都大学東南アジア地域研究研究所

東南アジア地域研究研究所附属 CIRAS センターは、共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」として、地域研究者コミュニティの協力参加のもと、世界の今日的課題に地域横断的に取り組む研究プロジェクトである「相関地域研究」、「地域情報学」、「災害対応の地域研究」を実施している。これらの研究プロジェクトの実施にあたっては、広い基盤に立った研究の進展をはかるため、公募による共同研究や公開シンポジウム・公開ワークショップなど学内外に広く開かれた研究システムを導入している。

2019年2月16日(土)に2018年度共同利用・共同研究報告会及び共同研究ワークショップ「地域研究の新たな冒険ー変動する社会を歴史の中で読み解く」を開催した。CIRAS センターでは3つのプロジェクトのもとで、国内外の地域研究機関と連携して共同利用・共同研究を推進してきた。2018年度は各プロジェクトのもとに複合同研究ユニットと個別研究ユニットをツリー上に配置し、研究対象となる地域や分野を超えた共同研究を実施した。報告会では今年度で終了となる12課題についての報告が行われた。(図 CIRAS センター共同利用共同研究一覧)

2018年度東南アジア地域研究研究所 共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」研究一覧

相関地域研究プロジェクト

	研究代表者	所 属(2018年度末現在)	研究ユニット名
複合	村上 勇介	東南地域研	秩序再編の地域連関
個別	仙石 学	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター	新興国の経済政策比較ー新興民主主義国とポスト社会主義国の比較から
個別	末近 浩太	立命館大学国際関係学部	体制転換過程の比較研究ー社会運動と軍・政党
個別	中本 義彦	静岡大学大学院人文社会科学領域	環太平洋地域における秩序再編動態の研究
個別	王 柳蘭	同志社大学グローバル地域文化学部	ミクロヒストリーから照射する越境・葛藤と共生の動態に関する比較研究
個別	和崎 聖日	中部大学人文学部	社会主義を経たイスラーム地域のジェンダー・家族・モダニティー中東イスラーム地域研究との架橋をめざして

地域情報学プロジェクト

複合	柳澤 雅之	東南地域研	「地域の知」の創生と再生
個別	河瀬 彰宏	同志社大学文化情報学部	日本民謡の地域情報学的分析ー音の伝播と普遍性
個別	工藤 彰	東京工業大学大学院	純文学と大衆文学における文学空間史とデータベースの構築

災害対応の地域研究プロジェクト

複合	西 芳実	東南地域研	災いへの社会的対応
個別	坪井 祐司	名城大学国際学群	東南アジアの国民国家の形成過程における民族・宗教の対立
個別	篠崎 香織	北九州市立大学外国語学部	災いへの対応としての非正規滞在者：東南アジアを事例として

引き続き、CIRAS センター共同研究ワークショップ「地域研究の新たな冒険ー変動する社会を歴史の中で読み解く」が行われた。ワークショップの概要は下記の通り。

話題提供

「マレーシアの政権交代ーメディアと大衆」 山本博之

「インドネシアの津波と内戦ー信仰と共生」 西芳実

「ベトナムの出稼ぎと農村経済ー親密さと豊かさ」

柳澤雅之

コメンテーター：岡田泰平（東京大学大学院総合文化研究科）、三重野文晴



CIRAS センターが主宰するワークショップ「地域研究の新たな冒険ー変動する社会を歴史の中で読み解く」を2019年2月16日に開催した。近年の学術行政の中では、教育・研究プログラムが整備され短期間で効率的に国際的な基準をクリアした研究成果を継続的に出し続けることのできる体制が整えられてきた。その一方で、いまだ標準化が困難で、時間のかかる手作業によってはじめて生み出される研究成果もまた存在する。中でも地域研究という営みは、対象とする地域社会の多様性や歴史を反映し、研究プロセスの標準化は特にむづかしい分野かもしれない。本ワークショップでは、手間はかかるものの、地域研究ならではの研究成果の出し方を考えることを大きなテーマとしながら、今年度は、対象とする地域の長期の歴史をどのように地域研究の現代的な課題と関連づけているのかについて考えた。いずれの発表でも、めまぐるしく変わる現代的課題が、実は地域の歴史の中で繰り返し現れる現象の一端であることや、大きな歴史的イベントも小さな事象の積み重ねの中で理解できる点などが議論され、大変興味深かった。次年度以降のワークショップにもご期待ください。

CIRAS Website : <https://ciras.cseas.kyoto-u.ac.jp>